平成 27 年度建築研究所すまいづくり表彰について

平成 27 年度建築研究所すまいづくり表彰について

実施の経緯

豊かな四季の変化があり、また南北に長い国土が寒冷気候地帯から亜熱帯気候地帯に位置するわが国には、様々に異なる気候・風土が存在する。従って、ある地域に居住するに当たっては、地域によって対応すべき気候・風土・環境は異なっており、そこで産出される材料も多様であることから、育まれる地域の住文化はそれぞれに固有の豊かさを有している。

地域に根ざしたすまいづくり・まちづくりの実現に向けた取り組みとして、1983 年度より国土交通省（当時 : 建設省）の補助事業として地域住宅計画推進事業（通称 HOPE 計画）が創設され、地域の住宅事情に最も精通している市町村が主体となって、地域の建設関連業者や住民等と共に地域に密着した事業を展開したことにより、それぞれの地域での豊かな個性ある住文化に根ざしたすまい・まちづくりが実現されてきた。これに対して建築研究所では、様々な状況の変化に的確に対応しつつ、すまいの地域性の研究とそれに基づく技術開発を長年にわたり一貫して行うことで、豊かな個性ある住文化に根ざしたすまいづくり・まちづくりの推進に一定の寄与をしてきたところである。

建築研究所では、すまい・まちづくりに関するこれまでの研究・開発の効果を総括するとともに、その結果をフィードバックさせ、これからのさらなる住みよいすまいづくりに関する研究・開発を実施して行くために、平成 26 年度に「建築研究所すまいづくり表彰　地域住宅賞」を実施し、さらなる推進のために、平成 27 年度についても同表彰を引き続き実施したものである。

なお本表彰は、建築研究所重点課題「アジアの住まいとその地域性に配慮した省エネ住宅設計技術の移転手法に関する研究～アジア・モンスーン地域を対象として～（平成 26～27 年度課題）」の一環として実施した。同課題は、我が国でこれまでに培われてきた省エネ住宅設計技術のアジア・モンスーン地域の各国における活用に向けて、各地域の気候特性および各地域における住宅と住まい方等の調査を合わせて行うことで、その実現可能性を検討するものである。

我が国における省エネ住宅の発展の背景には、気候風土や地域の地場産材などをはじめとした多様な地域性に配慮し育まれてきたすまい・まちづくりがある。

省エネ技術や省エネ住宅の情報収集と合わせて、これら地域に根ざした気候・風土を始めとした多様な地域性に配慮したすまい・まちづくりについての調査・整理を行うことで得られる知見を今後へ生かしていくことも重要である。

あわせて、特に優れたものについては表彰を行うことにより、近年の意欲的な取り組みに脚光を当てる機会が得られ、また、その事例を集め公表することにより、今後のより活発なすまい・まちづくりへ資するものとなることも期待される。以上の理由から、本表彰を当課題において実施したものである。

本表彰の意義・目的

本表彰は、地域自身の創意と工夫による住み良いすまいづくりを今後より一層促進して行くことを第一の目的としている。そのために優れた作品・活動を表彰し、表彰事例を整理・公表することで、その推進ならびに啓発を図り、以て地域の住文化に根ざし、人に優しく、地域に優しく、そして地球に優しいこれからの未来に向けたすまいづくり・まちづくりに資することを企図するものである。

わが国におけるすまい・まちに関する課題の多くは人口減少に伴う少子高齢化の進展が直接的・間接的な原因と捉えられ、これらは成熟社会に特有の課題であると位置づけることができよう。ハード面での例を挙げれば、人口減少を踏まえた市街地のコンパクト化や、既存の建築・都市ストックの適切な維持管理を行う必要性は高い。また、ソフト面では地域における良好なコミュニティの形成、既存の住宅も含む地域資源の活用や伝統的な建築技術の継承およびその普及啓発等に取り組んでいくことが重要であり、さらには住宅・都市における快適な生活の担保や省エネルギーも重要なテーマである。

これら課題に適切に対処するためには、人口動態や経済的状況等が地域によって様々であることを踏まえ、画一的な対応方策ではなく、それぞれの地域に合わせた課題解決を図ることが求められる。その意味で、これまでに地域が培ってきた歴史や文化の多様さに十分配慮しつつ、地域ならではのすまい・まちのあるべき姿を実現するために、近年の社会情勢を踏まえ取り組まれてきた「すまい・まちづくり」の優れた事例を収集し、新たな視線で捉え直すことは有意義であると言える。

平成 27 年度表彰においては、このような課題に対して作り手や担い手が有する問題意識を丁寧に突き詰め、地域からのひとつの回答を提示する意欲的な作品・活動が多く寄せられた。例えば、人口減少下の市街地再編に際して居住区域の集約化と居住環境の改善、省エネルギー等の一体的な解決を図った取り組みや、ある平面設計のパターンを手がかりとして街並み形成やバリアフリー、コミュニティ活発化に取り組んだ災害公営住宅、また、地域の気候風土に配慮しつつ、住宅における省エネルギーとすまいと地域をつなぐ空間の実現を大胆な建築設計により可能とした作品などである。

地域ごとに多様で輻輳的な課題に取り組むにあたって、本表彰に応募された作品・活動は今後の地域の在り方を考えるうえで重要な示唆を与えるものであると考えられ、今後の望ましいすまい・まちの実現に向けた資料として一定の意義があると考えられる。

建築研究所すまいづくり表彰の実施

「平成 27 年度建築研究所すまいづくり表彰　地域住宅賞」においては、前年度と同様に「住宅部門」と「地域部門」の 2 部門を設けることとした。

「住宅部門」とは、地域の気候風土に対応し、かつ住宅生産体制や地域の資源（人材、地場産材）や住宅建設システムの活用などの広範な地域の住文化に立脚した、現代社会の諸問題に対応したライフスタイルを実現するすまいづくりによる住宅作品を表彰するものである。
また「地域部門」とは、地域の住文化や伝統文化に根ざしたすまいづくりによるまちづくり（景観整備等）や、地域の資源（人材、地場産材）の活用などによる地域の住宅生産体制の確立や政策等、地域の活性化に資する活動を表彰するものである。

これを踏まえ、地域の気候・風土に適合し、地域の人（人材）、地域の物（地場産材や既存建築の活用）、地域の技術などの地域の住文化を大切にした、真に住み良く、地域・人・環境に優しいすまいづくり、ならびに、まちづくり及びそれらに関わる活動を広く募集した。

平成 27 年 10 月 22 日（木）から 12 月 17 日（木）の 2 ヶ月を募集期間として応

募を募ったところ、住宅部門 12 件、地域部門 5 件の、計 17 件の作品・活動が寄せられた。

応募された作品・活動について、これら 2 部門毎に、平成 28 年 1 月 14 日に開催された審査委員会による審査を経た上で、特に優秀な作品や活動を「建築研究所すまいづくり表彰　地域住宅賞」として、また、地域住宅賞に準じる優れたものを「建築研究所すまいづくり表彰　地域住宅奨励賞」として表彰することとした。

受賞作品・活動の選考

平成 27 年 2 月 17 日に開催された審査委員会においては、住宅部門、地域部門毎に予備審査と本審査の 2 段階にわけて審査を実施した。
まず選考過程全般を通して、本表彰における公平な評価・選考過程を担保するために、応募された作品・活動に直接的に関係する応募に対しては推薦等を行わないことを確認した。

はじめに各審査委員が地域住宅賞の趣旨に則り、各自の評価基準で地域住宅賞にふさわしいと思うものに投票を行った。奨励賞等も含め複数の作品・活動を表彰するため、この段階では複数投票を可とした。この投票結果を参考に、全ての応募作品・活動について審査委員がその理由を相互確認した。次に選考の公正さを確保するために審査に関する幾つかの評価項目について共通認識のための意見交換を行いながら、受賞作品決定のための議論を行った。

提案の優れた特徴や作品・活動の持つ説得性、普遍性、普及の可能性および建築技術の先進性・確実性等について配慮した上で、住宅部門においては「地域住宅賞」を 2 件、「地域住宅奨励賞」を 2 件、また、地域部門においては「地域住宅賞」を 1 件、「地域住宅奨励賞」を 2 件、それぞれ選定した。

審査委員会においては、平成 26 年度に実施した同表彰に比較して応募作品数は少ないものの、各応募作品が非常に質の高いものであることが確認された。特に住宅部門においては、「地域住宅賞」に相当する優劣つけがたい 2 作品が見られたため、これらを同等と評価し表彰することとした。

受賞作品・活動寸評

建築研究所すまいづくり表彰　地域住宅賞

【住宅部門】

作品・活動名：岩沼市玉浦西災害公営住宅 B-1 地区

代表応募者　：有限会社 都市建築設計集団/UAPP 手島 浩之

場所　　：宮城県岩沼市

寸評　　：2011 年の東日本大震災で被災した岩沼市における防災集団移転促進事業と一体的に行われた玉浦西地区における災害公営住宅の建設である。計画に当たっては、(1)高齢者の見守りやコミュニティ形成への配慮、(2)災害公営住宅入居者のみならず地域住民が安全に行き来できる歩行者ネットワークの形成、(3)周辺景観へ寄与する街並みの形成、(4)構造安定性、生活における利便性、経済性、家族の成長に合わせた生活空間の発展性を考慮した合理的な木造住宅の設計の解決が図られている。

住戸を田の字型の平面プランとして設計することにより構造安定性、プランの生活への対応、家族の成長に対応させた構成に自由度を持たせており、また地区内配置計画では街並み・景観形成に配慮することが可能となっている。プランを 90 度回転させてもリビングが南面するという設計の自由度を活かし、各住戸のリビングが共用テラスに接続しており、バリアフリーのリビングアクセスが確保されるとともに「緑道」へとつながっている。「緑道」は地区全体の見守り空間であり、入居者だけでなく、地域住民も利用可能な歩行者ネットワークとして整備されたものである。

住戸の柔軟な設計性を手がかりにプライベートな空間から地域のパブリックな空間までをバリアフリーにつなぎ、高齢者の快適な生活、家族の成長に対応できるプラン、また地域コミュニティとの連携、街並み形成が図られている点が評価される。これらの取り組みは、災害公営住宅での多様な家族形態とその成長、特に高齢化の進展に伴う課題に対応しつつ、地域に開かれ共存する災害時における将来を見据えた公営住宅団地のモデルとなり得るものである。

作品・活動名：i-HOUSE
代表応募者　：松浦一級建築設計事務所 松浦良博
場所　　：青森県むつ市
寸評　　：青森県むつ市における、単純な構造計画と、特徴的な大きな土間を有しながら、効率的な断熱空間により夏の生活、冬の生活双方に楽しく対応する住宅である。

土間は断熱のされない半外部空間となっており、冬は極寒空間と、断熱空間の住まいとの干渉空間となり、春、夏、秋には空調のいらない快適な日本の気候に対応した開放的な空間を実現しており、我が国の四季の気候に合わせて自由に工夫しながら使うことが可能な自然とつながる空間として計画されている。

また半外部空間であるため、地域のコミュニティに開かれた、社会へつながるための空間としての利用も図られている。一方、住居部分は無暖房住宅となるよう設計され、省エネルギー性能の向上に配慮されている。

住宅の中で半外部空間と生活空間を明確に空間として区分することによって、土間空間は、外部と全面開放できる建具で仕切られ、快適な気候の時期にはほぼ外部として扱うことも可能となり、また生活空間は特に北日本の厳しい冬期に高断熱化が可能となるためエネルギーを要さない形となるため、住宅全体として季節を通じてエネルギーを最小化する点が興味深い。

生活空間と自然・社会を段階的につなぐために大きな土間を配し、快適な春から夏の生活を基本としながらも、冬期の省エネルギーも図られた、今後我が国の最重要課題となる地方部における住宅・住まい方の計画モデルとして意義のあるものである。

【地域部門】

作品・活動名：コンパクトシティへ向けた夕張市真谷地団地集約化事業

代表応募者　：北海道大学大学院工学研究院都市地域デザイン学
瀬戸口研究室（教授 瀬戸口剛）

場所　　：北海道夕張市

寸評　　：積雪寒冷地にあって人口が急激に減少する当該地区に対し、公営住宅団地（元炭鉱住宅）内移転を通した集約化により、生活環境の改善（各戸の省エネ、高齢化対応等）、団地運営の効率化を実現した取り組みである。

夕張市真谷地団地においては空き住戸数が 2/3 に達し、住民生活利便性、また市の維持管理負担の面から、団地内移転による従前 12 棟から 6 棟への集約化、および高齢化にあわせた低層部への移転（3 階の部屋を使わず、1、2 階に居住者を集約させた）を行った。集合して居住することにより、棟全体としての暖房効率を向上させたこと、世帯当たりのエネルギー消費を抑え、かつ除雪面積を減少させたこと、またこれによりコミュニケーション機会を増加させたことなど、様々な効果を生み出すよう配慮された計画である。

特に、暖房費の削減や除雪面積の減少効果の数値による提示、事業後の住民アンケートの実施、中長期的な事業評価による維持管理コストの削減効果が定量的に示されている点など、コンパクト化、高齢化対応のための取り組みが住民満足度、中長期的な観点から綿密に検証されている。

このような計画の実現には丹念で継続的な活動が不可欠と考えられ、応募者らの労作と言えよう。我が国全体で将来的な人口減少が多くの地域で確実視される中、地域性に配慮しつつ今後のあるべき地域の姿を実現するモデルとして大いに参考となる取り組みと言える。

建築研究所すまいづくり表彰　地域住宅奨励賞

【住宅部門】

作品・活動名：コンパクトシティへの先導モデル 夕張市営住宅歩・萌団地

代表応募者　：（有）アーキシップアソシエイツ 取締役 久保田 知明

場所　　：北海道夕張市

寸評　　：夕張市における地域再生計画に基づくコンパクト化の取り組みの中で、現在最も人口が集中している清水沢地区へ「都市拠点」としての再活性化を目指して市営住宅を集約化した取り組みである。団地再編整備による人口集中地区での地区居住人口の増加と、医療・福祉・教育・生活利便施設等の集約を同時に図り、団地の移転事業である「歩団地」、建て替え事業である「萌団地」を市中央部において実施した。

住戸の建設に当たっては、エネルギー負担の軽減や、経済的かつ柔軟なプランニングを実現可能な 2 間一尺モジュール構法システムによる型別供給の実施、これらのシステムによる将来的なプラン変更への配慮等、持続可能な木造公営住宅の運営を目指した意欲的な取り組みが見られる。また合わせて、雁木の設置による安全な冬季歩行空間の確保やそれと連動するコミュニティ配置が実現する施設の有効活用に向けた施設整備、私有林の活用による地産地消なども図られている。

人口減少社会においてコンパクトな市街地形成は今後より重要となる中で、地域の再編計画における木造公営住宅の一つの在り方を示した取り組みと言える。

作品・活動名：林業で栄えた町の、山を見てつくる家 小規模人工林と地域の技術を活かす構法と生産

代表応募者　：香川大学　釜床 美也子

場所　　：徳島県徳島市

寸評　　：徳島市における個人所有の森林資源を家づくりに利用した試みである。

伐採から竣工まで 3 年超を費やしており、木材準備においては 1 年 5 か月の自然乾燥に見られるように丁寧に工程を進め、板倉構法の採用や近年の木造住宅の 3~4 倍の木材を用いるなど、地域材を活かすための配慮がなされている。これら様々な工程は実際に施主を中心として直営で進められ、製材業者等との協働による家づくりが実施された。このような手法は地域住宅に相応しいものであり、全国の地場産材による住まい・まちづくりの模範となるものである。

地域の木材、人、伝統技術を活かしつつ、必ずしも経済性にのみとらわれずに時間をかけて、協働による伝統的な建築生産を試みた意欲的な取り組みであると言える。

【地域部門】

作品・活動名：奥越大工塾

代表応募者　：福井県建築組合連合会 奥越ブロック会

場所　　：福井県大野市・勝山市・永平寺町

寸評　　：大工技術は伝統的に地域における住宅生産を支えてきた。地域における木造住宅のあり方、これからの時代に合わせたすまい方を考えるにあたり、地域に信頼できる大工がいることは重要である。そのためには将来を担う若手大工の育成が必要であるものの、近年若手大工数は減少し、技能継承が困難になってきている。このような状況に対し、奥越大工塾は技能習得・人材交流の福井県建築組合連合会奥越ブロック会が行う取り組みである。

地区内及び県内在住の若手大工を対象として実技演習を中心とした 8 日間の講座を 2012 年から継続して実施してきており、旧来には若手大工が先輩大工や同世代の大工との交流によって獲得してきた技能や知見を学ぶ機会として有意義である。

これまで培われてきた技能・経験を次世代あるいはその先に広く継承させることで、地域のすまいづくりを支え・より良くしていこうとする意欲的な取り組みである。

作品・活動名：民家と民家を支えるしくみ再生「木と土の家」普及啓発
代表応募者　：山口民家作事組
場所　　：山口県山口市
寸評　　：山口県では伝統的に、地場産材である良質な粘土と豊富な森林資源を活かして住宅が作られてきた。この伝統技術を継承し、発展させ、現代における地域型木造住宅「木と土の家」として提案・普及活動を行うものである。

山口民家作事組は、平成 11 年から県内の古民家実態調査を行い、伝統技術を現代においても活用していくために耐震性・断熱性等の改良に取り組んできた。加えて、熟練職人の技術を知り、「木と土の家」の魅力を理解してもらうためにセミナーを平成 25 年度より継続して実施してきている。

地域の伝統技術・生産システムの普及・発展を図りつつ、供給側だけではなく「生活者」の視点からもこれからの地域におけるすまい方を考えられるような多角的な取り組みとして評価できる。

審査委員会構成

「平成 27 年度建築研究所すまいづくり表彰」の審査委員会の構成は次の通り。

委員長	渡邉定夫	東京大学名誉教授
委員	三井所清典	芝浦工業大学名誉教授 公益社団法人日本建築士会連合会会長
委員	岩田司	東北大学災害科学国際研究所教授
委員	川崎直宏	株式会社市浦ハウジング＆プランニング代表取締役副社長
委員	清水耕一郎	株式会社アルセッド建築研究所佐賀事務所所長
委員	内田純夫	国土交通省住宅局住宅総合整備課住環境整備室室長
委員	水谷明大	国立研究開発法人建築研究所住宅・都市研究グループ長

表彰状

表彰状、および額装（地域住宅賞のみ）は、現在においても積極的に地域住宅計画を推進する各地方自治体において、地域の文化を支える方々にご協力をお願いし、一品一品全て手づくりで作成したもので、地域の心のこもった作品となっている。

記章　佐賀県有田町　有田焼
色鍋島　今右衛門　人間国宝　十四代　今泉今右衛門
額縁　山形県金山町　金山杉
きごころ工房　指物師　岸　欣一
賞状　富山県富山市八尾　手漉き和紙
桂樹舎　紙漉き職人　水橋　真佐美
書　福島県三春町
内藤　星姿

表彰式の様子